

文京区アカデミー推進計画の点検・評価について

1 概要

今年度予定していた「文京区アカデミー推進計画（平成28年度～令和2年度）」の改定は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度に延期したため、今年度は令和元年度に行った事業の点検・評価のみを実施した。

点検・評価は、アカデミー推進協議会にて分野別に「主要な事業の実施状況の点検及び成果に対する評価」と「分野別目標に対する事業を通じた達成状況」の2つの視点から主に行い、今後、点検・評価を踏まえたコロナ禍における事業の考え方や取組方法等について見直しを進める。

なお、計画改定の1年延期により、アカデミー推進計画の計画期間を令和3年度まで延長する。

2 令和元年度分野別事業数

分 野	生涯学習	スポーツ	文化芸術	観 光	国際交流	5分野合計
主 要 事 業	30事業	48事業	42事業	28事業	22事業	170事業
その他事業	146事業	21事業	13事業	11事業	7事業	198事業
合 計	176事業	69事業	55事業	39事業	29事業	368事業

3 評価結果

別紙のとおり

**令和2年度
文京区アカデミー推進計画の点検・評価**

目 次

第1章 事業の点検・評価の考え方	1
1. 概要	1
2. 体制と手法	1
3. 新型コロナウイルス感染症の影響について	1
第2章 生涯学習分野の点検・評価	2
1. 対象事業	2
2. 主要な事業の成果に対する評価	4
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	11
第3章 スポーツ分野の点検・評価	12
1. 対象事業	12
2. 主要な事業の成果に対する評価	15
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	23
第4章 文化芸術分野の点検・評価	24
1. 対象事業	24
2. 主要な事業の成果に対する評価	26
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	32
第5章 観光分野の点検・評価	33
1. 対象事業	33
2. 主要な事業の成果に対する評価	35
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	41
第6章 国際交流分野の点検・評価	42
1. 対象事業	42
2. 主要な事業の成果に対する評価	43
3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況	47
第7章 横断的施策の点検・評価	48
1. 主要な事業の成果に対する評価	48

文京区アカデミー推進計画は、生涯学習、文化芸術、スポーツ、観光、国際交流という5つの分野に関する施策を推進していくための計画である。

現在の計画は、平成28年度より5年間を計画期間としており、令和2年度に改定を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、改定を令和3年度に延期した。そのため、今年度は、例年実施している事業の実施状況や課題等の点検・評価を行った。

第1章 事業の点検・評価の考え方

1. 概要

事業の点検・評価は、令和元年度に実施した事業を対象として、分野別に次の2つの視点から行った。

- ①主要な事業の実施状況の点検及び成果に対する評価
- ②分野別目標に対する事業を通じた達成状況

2. 体制と手法

(1) 点検・評価の体制

点検・評価は、学識経験者、関係団体及び区民等で構成するアカデミー推進協議会にて実施した。

■令和2年度 文京区アカデミー推進協議会経過

経過	通知日	主な内容
アカデミー推進計画改定のスケジュールについて(通知)	令和2年7月28日	計画改定について
アカデミー推進計画点検・評価について(通知)	令和2年11月19日	点検・評価のスケジュールについて
アカデミー推進協議会分野別分科会(書面開催)	令和2年11月25日	各分野の点検・評価について
アカデミー推進協議会(書面開催)	令和2年12月18日	協議会としての点検・評価について

(2) 点検・評価手法

協議会に「生涯学習・文化芸術分科会」「スポーツ分科会」「観光・交流分科会」の3つの分科会を設置し、5つの分野について分野別目標ごとに点検・評価を行った。

点検・評価は、令和元年度に実施した主要な事業(主にアカデミー推進計画事業、基本構想実施計画事業、令和元年度重点施策対象事業など)の実績調査結果及び事務局が作成した点検・評価を資料配付し、主要な事業の成果に対する評価について意見を聴取した。

分野別目標に対する事業を通じた達成状況については、各分科会の座長が総括して点検・評価を行った。

各委員から出された意見・要望及び座長の意見等について協議会に報告し、令和元年度事業の点検・評価とした。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響について

現在、世界的に流行している新型コロナウイルスは、令和2年1月以降日本でも感染が拡大しており、今もなお、新規感染者数は増加している状況である。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、文京区アカデミー推進計画が包含している5つの分野の事業にも中止または縮小など深刻な影響を及ぼしている。そのため、令和元年度事業の点検・評価にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を加味して行うこととする。

第2章 生涯学習分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 生涯学習分野における主要な事業

分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	文京アカデミア講座	○	○	
2	文京いきいきアカデミア講座	○	○	
3	企業等連携講座(メセナ講演会)	○	○	
4	大学プロデュース特別公開講座(学長講演会)	○	○	
5	資格取得キャリアアップ講座	○		
6	大学連携による各種事業	○	○	
7	大学連携による附属図書館の区民開放	○		
8	視聴覚資料等の貸出	○		
9	「文の京」施設予約ねっとシステム	○		
10	区内大学学長懇談会の実施		○	
11	保育室の設置及び手話通訳者の配置	○		
12	文京 e-ラーニング	○		
13	夜間・休日の講座開設	○		
14	生涯学習の相談	○	○	
15	地域資料の充実	○		
16	図書館サービスの充実	○		
17	小石川図書館の改築の検討		○	
分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実				
18	文京区生涯学習サークル連絡会の支援	○		
19	生涯学習フェア	○		
20	区民プロデュース講座の企画支援	○		
21	人材育成のための講座	○	○	
22	各種講座・展示会の企画への起用	○	○	
23	学習支援者スキルアップ講座	○	○	
24	「文京バックアップーズ」～大学生ボランティアのススメ～		○	
分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり				
25	サークル活動の広報	○		
26	ふれあいサロン	○	○	
27	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
28	文京お届け講座	○		
29	「文京学」講座	○		
30	区民プロデュース講座	○		

(2) 分野別事業数

主要事業及びその他区が実施する各分野別の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	17 事業	68 事業
【分野別目標2】 一人ひとりが学びの成果を活かす機会の提供・充実	7 事業	34 事業
【分野別目標3】 学びの継続を通じたまちづくり	6 事業	44 事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

前年度の課題と今後の対応・方向

①生涯学習相談窓口の周知

相談窓口の開設日時・場所等について、区民に対して適切に周知する必要がある。また、職員への周知も図り、相談希望者を適切に相談窓口案内する体制を整えられたい。

②学習機会の情報集約・周知

区が実施する講座だけでなく、民間等が区内で実施する講座情報も集約し、まとめて区民に情報提供することで、学習機会への参加促進につなげることができる。特に社会人や子育て世代など、事業に参加したことがない人に対する広報として、子どもの集まる児童館等での広報物の配布や庁舎内のデジタルサイネージの活用も検討されたい。

③講座ニーズの把握

平成30年度は、講座受講時に保育室の利用希望者がいなかったが、子育て世代がどのような時間帯に、どのような講座を求めているのか、ニーズを把握した上で、講座を企画していく必要がある。

④文の京施設予約ねっとシステムの改善

文の京施設予約ねっとシステムについては、システムの使い勝手について、以前から課題が指摘されている。システム更新時には、より簡単に利用できるように改善を期待する。

【取組状況の評価】

①生涯学習相談窓口の周知

生涯学習相談窓口について、区民プロデュース講座の企画相談窓口としても位置付け、機能強化するとともに、令和元年度は(公財)文京アカデミーの情報紙「スクエア」に4回掲載し、窓口の周知が図られている。

《関連事業 14、20》

②学習機会の情報集約・周知

区の実施する講座等の事業については、生涯学習施設に限らず、様々な施設での広報物の配布や、掲示板・コミュニティバス等での掲示を行い、広く区民へ周知することができている。

デジタルサイネージの活用については、引き続き検討が必要である。

③講座ニーズの把握

区が関係する講座やイベントなどの情報のほか、区内の大学や文化施設だけでなく、隣接区が会場となる講座やイベントに関するチラシ・パンフレットも積極的に収集し、相談窓口で活用されている。子育て世代を対象とした講座については、引き続き検討が必要である。

④文の京施設予約ねっとシステムの改善

令和2年4月より、新たに地域活動センター等21施設に施設予約ねっとシステムを導入するための準備を行い、施設利用の利便性向上につなげられている。

《関連事業 9》

【課題と今後の対応・方向】

(1)多様な講座や学習機会の提供・充実

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として導入したオンライン講座と、従来の対面型講座の特長を活かして、多様な学習機会の提供に努める必要がある。

(2)学習・活動ができる環境の提供

区内大学と連携した講座の実施にあたって、19大学の特色や専門性を活かしたテーマや内容とするため、大学と情報を共有しながら調整が必要である。オンラインで学習活動に取り組む人への支援(操作方法等)も検討されたい。

(3)あらゆる立場の人たちに対応した学習支援の充実

人々のライフスタイルの変化に対応するとともに、今まで生涯学習活動への参加が少なかった世代に対し、関係部署と連携してニーズを把握し、各種講座・講演会や生涯学習の情報の提供を行う必要がある。

(4)地域の学習拠点としての図書館づくり

文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会の検討を踏まえ、小石川図書館と竹早公園の一体的整備について協議が必要である。また、図書館機能向上の方策の一つとして、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、必要性が高まった電子書籍を導入するとともに、「文の京デジタル文庫」のさらなる充実が求められる。

【参考事業】

■事業1 文京アカデミア講座

区民の学習を支援するため、地域、文学、歴史・社会、自然科学、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、バラエティに富んだ講座を提供する。		
事業実施内容	事業実績	
文京アカデミア講座 83講座 外国人おもてなし英会話講座 5講座 魚のおろし方教室 2講座 パソコン講座 4講座8コース 夏休み子どもアカデミア講座 12講座	当初予定数	3,219人
	実績数 ¹	3,288人(3,379人)(3,096人)
	申込数	4,886人
成果	課題	
年間を通して、バラエティに富んだ講座を提供し、アンケートにおいて受講生から高い講座満足度を得られた。 講座修了生と区内サークル活動との連携により、生涯学習の継続のきっかけを作ることができた。 アカデミアサポーターの協力により、充実した講座運営が実施できている。	アンケートの満足度は高いにもかかわらず、定員に満たない講座があった。	
	課題解決に向けた取組 講座内容やPR方法を工夫するなど、効果的な広報を行う。	

¹実績数欄には、左から、令和元年度 3,288 人、(平成 30 年度 3,379 人)、(平成 29 年度 3,096 人)を記載。以下同じ。

■事業9 「文の京」施設予約ねっとシステム

事業概要		
施設予約ねっとシステムの活用により、施設利用者へのさらなる利便性向上を図る。		
事業実施内容	事業実績	
施設予約ねっと登録団体数(R2.3.31時点) 7,274団体(個人利用を含む) 導入施設数:24施設(令和2年4月より45施設)	当初予定数	—
	実績数	24施設(24施設)(24施設)
	申込数	—
成果	課題	
令和2年4月より、新たに地域活動センター等21施設に施設予約ねっとシステムを導入するための準備ができた。	利用希望者などから、施設使用料の支払いについて、ゆうちょ銀行での口座振替やクレジットカードでの取り扱いを求める意見があった。	
	課題解決に向けた取組	
	令和2年秋から、ゆうちょ銀行での口座振替を開始する。また、クレジットカード等窓口のキャッシュレス化については、令和3年度中の施設予約ねっとシステムの更新と併せて検討していく。	

(2)分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

<p>前年度の課題と今後の対応・方向</p> <p>①区民プロデュース講座の周知</p> <p>社会人など、日中に時間が取れない人も含めたより多くの人に企画を提案してもらうためには、申込み要件の見直しも視野に入れる必要がある。また、自ら講座を企画し、実施することと、区民プロデュース講座として講座を実施することの違い(メリット)を、区民に対して明確に伝えていくことも必要である。</p> <p>②文京バックアップの活用</p> <p>経費に対して実績が伸びていない。Web サイトのメインターゲットである大学生に向けて情報を届けるため、大学生の情報感度に合わせた情報の発信、コンテンツの制作が必要である。</p>

【取組状況の評価】

①区民プロデュース講座の周知

区民プロデュース講座の募集時期に合わせ、(公財)文京アカデミーの情報紙「スクエア」に企画が採用された方のインタビュー記事を掲載し、企画応募を促している。また、受講者向けパンフレットに、区民プロデュース講座のページを設け、講座の趣旨を含めて応募意欲を喚起する紙面づくりを行い、積極的に周知している。

《関連事業 20》

②文京バックアップの活用

区内在学の大学生に、区のボランティア事業に参加した体験を活かして、Webサイトに掲載するコンテンツ作成やSNSでの事業PRを行ってもらうことで、文京区の魅力を学生の視点で発信できている。しかし、一方で新規掲載するコンテンツ数やサイトの更新回数が伸び悩んでいる。《関連事業 24》

【課題と今後の対応・方向】

(1)主体的な活動を支える仕組みづくり

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、生涯学習サークル連絡会公開講座などの各種自主学習活動を支援していくことが必要である。

(2)活動成果披露の場の充実

新型コロナウイルス感染拡大により学習活動が制約される中で、安心・安全に日頃の学習成果を発表できる場を提供する必要がある。また、区民プロデュース講座は、より幅広い分野の講座を提供するための人材発掘に加え、講師のスキルや知識を受講者にしっかり伝えるための支援が必要である。

(3)人材育成・活用の推進

平成18年度に生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターの人材育成講座が始まって以来、有資格者は580人(延べ人数)にのぼる。近年、応募が減少傾向にあるため、新たな人材の育成とともに、有資格者のスキルアップ及び相互の連携協力を促す支援が必要である。

【参考事業】

■事業20 区民プロデュース講座の企画支援

事業概要		
区民プロデュース講座企画者の負担を軽減し、企画を支援するための取り組みを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
企画書の書き方をわかりやすく解説した記入例を配布 生涯学習相談窓口で生涯学習司による企画相談を実施	当初予定数	—
	実績数	40件(54件)(50件)
	申込数	—
成果	課題	
様式の統一化と生涯学習相談窓口での企画相談受付等、区民プロデュース講座の企画支援は充実してきている。 区民プロデュース講座の募集時期が新型コロナウイルス感染症の拡大時期(3月)に重なったため、相談件数が伸びなかった。	企画内容が生涯学習講座に合わないものや、一定のジャンルに偏ることがある。	
	課題解決に向けた取組	
	提案された講座内容をブラッシュアップするとともに、生涯学習司等と協力し、多様なジャンルの人材発掘を図る。	

■事業24 「文京バックアップ」～大学生ボランティアのススメ～

事業概要		
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、区内在住・在学の大学生等のボランティア活動への気運醸成を図るため、WEBサイトを開設・運営する。		
事業実施内容	事業実績	
バックアップ情報(新規):2件 バックアップ紹介:4件 バックアップラボコンテンツ:5件	当初予定数	—
	実績数	11件(50件)(—)
	申込数	—
成果	課題	
区内大学生等に向けて、区事業のボランティア情報を発信し、ボランティアの参加につなげることができた。 また、学生に区事業等に参加した感想等をSNSで発信してもらうことにより、区内大学生等に区の魅力を発信できた。	事業終了	
	課題解決に向けた取組	
	事業終了	

(3)分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①文京お届け講座の広報

文京お届け講座について、ホームページや区報等で、区民に対して広く情報発信するだけでなく、生涯学習団体などの団体に直接広報することも効果的だと考えられる。

②NPOや市民団体等の活用

NPOや市民団体等が主体となり、地域アカデミーを活用して区民向けの講座を実施した場合、補助金を出すような仕組みを作るなど、区や指定管理者以外の外部資源の活用を検討する必要がある。

③庁内の生涯学習情報の集約・発信

他部署での生涯学習的な取り組みは、直接行政課題につながるものも多く、まちづくりにもかかわる内容である。個々に情報発信するのではなく、生涯学習に関する取り組みとして情報を集約し、まとめて発信することが必要である。

【取組状況の評価】

①文京お届け講座の広報

区ホームページや区報等で、区民に周知することにより、令和元年度の講座参加者は、前年度より40人増加し、認知度が上がってきている。各団体に対する効果的な広報方法について、引き続き検討が必要である。

《関連事業 28》

②NPOや市民団体等の活用

区や指定管理者以外に主体的な活動を行う団体として、社会教育関係団体をはじめ、区内を拠点とする団体に対する支援の拡充を引き続き検討されたい。

《関連事業 27》

③庁内の生涯学習情報の集約・発信

個々の事業については、区報やチラシなどの紙ベースの媒体に加え、ホームページやSNSを活用した情報発信が行われている。今後、情報を集約・発信するための庁内調整が必要である。
《関連事業 25》

【課題と今後の対応・方向】

(1)学びを通じた交流・仲間づくりの推進

社会教育関係団体の活動やふれあいサロンにおいて、区民が交流し、学び合う機会は創出されているが、学びで得たことを継続的に地域に還元する仕組みが必要である。

(2)地域で支える学習環境の充実

社会教育関係団体について、団体の実態と活動状況を把握し、団体での活動を希望する区民に対して、具体的な情報提供に努められたい。

(3)学び合いとまちづくりにつながる学習の推進

78講座の文京お届け講座に対して、実施講座数は23件と少なく、より多くの区民に活用してもらうための周知が必要である。また、新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンラインでの実施も推進されたい。

【参考事業】

■事業27 社会教育関係団体登録制度による活動支援

事業概要		
区民の自主的な文化・スポーツ・学習活動を促進するため、一定の要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、施設の優先利用や利用料金の減免などを行うことで、その活動を支援する。		
事業実施内容	事業実績	
登録団体数 1,159団体 (内訳) 生涯学習 642団体 スポーツ 517団体	当初予定数	—
	実績数	1,159団体(1,128団体)(1,103団体)
	申込数	—
成果	課題	
登録団体一覧の関連施設への配架、ホームページへの掲載により、登録団体を広く周知し、区民の自主的な活動の促進につながった。	活動休止や代表者等変更が行われていない場合がある。	
	課題解決に向けた取組 団体の活動状況を毎年度報告してもらうことで、団体の実態と活動状況の把握に努める。	

■事業28 文京お届け講座

事業概要		
地域の各種団体の要望に応じ、行政情報を提供することで、区民の自主的な学習活動を支援するとともに、区職員が講師になることにより、職員の意識改革と住民との協働関係の醸成を図る。		
事業実施内容	事業実績	
計23件 参加者計1,232人 【実施した主な講座名】 「がん検診について」、「健康に関すること」、「感染症の予防について」、「文京ふるさと歴史館について」、「えほんがすき！読み聞かせの手引き」など	当初予定数	—
	実績数	1,232人(1,192人)(1,685人)
	申込数	—
成果	課題	
区民の自主的な学習活動を支援し、区の施策等への理解を促進することができた。	全78講座に対して、実施講座数は23件であり、より幅広く区民に利用してもらうための周知や実施方法の検討等が必要である。	
	課題解決に向けた取組	
	区報・ホームページや各種団体への積極的な周知と併せ、オンラインを活用した講座の開催なども推進する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

生涯学習・文化芸術分科会座長 田中 雅文

① 分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

多様な学習機会の提供については、毎年のことながら非常に充実した事業提供を行っている。それらの学習機会の周知についても、様々なメディアを活用しながら充実した広報活動を実践している。今後は、オンラインを活用した講座の拡充、SNSや口コミによって区民同士の間で評判が流通するような仕掛け、あらゆる区民層に対する学習事業の提供の充実が求められる。

② 分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

学びの成果を活かす機会の提供として、区民プロデュース講座については、先進的な事業として定着していると思われる。今後は、学習成果の披露をオンラインで行う仕組みを整えること、生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターといった人材たちが互いに学び合えるようなコミュニティの形成を促すことが期待される。

③ 分野別目標3 学びの継続を通じたまちづくり

学びを通じた交流・仲間づくり、学び合いとまちづくりにつながる学習の推進については、文京お届け講座への参加者が増加したものの、学びを通じた区民同士の交流、学んだ成果を地域のさまざまな活動で活かすための仕組みなど、学ぶこととまちづくりの関係をさらに充実させる必要がある。

④ 分野の総評

多様な学習機会の提供については、例年どおり充実した活動を実践している。今後は、外国人・障害者などの学習活動を支援することによって、あらゆる人たちが平等に生涯学習の場を確保できるような後押しが必要である。また、NPO等の市民団体との連携、学習成果の活用の活発化により、学習活動とまちづくり活動の相乗効果を高める方策を整えていくことが必要である。

第3章 スポーツ分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) スポーツ分野における主要な事業

分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	初心者向けスポーツ教室	○		
2	小・中学生向けスポーツ教室	○		
3	親子向けスポーツ教室	○		
4	体育の日事業	○		
5	東京 2020 大会 カウントダウンプログラム		○	
6	オリンピック・パラリンピックこども新聞		○	
7	BUNKYO2020「文の京めぐり」			○
8	カウントダウンラグビーワールドカップ 2019 ストリートラグビー体験			○
9	あすチャレ！運動会「誰もが主役で参加できる運動会を作ろう」			○
10	スポーツ・パブリックビューイング	○		
11	読売巨人軍との協定に基づく事業の実施	○	○	
12	文京 LB レディース支援事業	○		
13	日本サッカー協会との協定に基づく事業の実施	○	○	
14	地域のスポーツ団体等との連携による事業展開	○	○	
分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進				
15	地域スポーツ団体の支援・育成	○		
16	個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス	○		
17	各種区民スポーツ大会等の開催	○		
18	文京区表彰要綱に基づく顕彰事業	○		
19	オリンピック・パラリンピック気運醸成補助金		○	
20	アウトドアスポーツ事業	○		
21	ジュニア・アスリート育成事業	○		
22	シニア向けスポーツ教室	○		
23	着衣泳講習会	○		
24	スポーツ指導者地域派遣		○	
25	スポ・レクひろば	○		
26	障害者のスポーツ施設利用促進事業	○		
27	障害者スポーツ体験教室	○		
28	障害者スポーツ指導員資格取得の支援	○		
分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備				
29	スポーツ施設の整備と活用促進	○		
30	六義公園運動場管理棟等の改築	○		
31	まると子育て応援未就学児童の遊び場開放事業	○		

32	学校施設の活用	○		
33	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
34	スポーツ推進委員会活動への支援	○		
35	スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱	○	○	
36	スポーツ指導者の育成	○	○	
37	スポーツ指導者派遣	○	○	
38	スポーツボランティアの養成	○	○	○
39	スポーツボランティア情報の発信	○		
40	スポーツ交流ひろば通信の発行	○		
41	地域スポーツ情報の提供	○		
42	各種メディアとの連携推進	○		
分野別目標4 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流				
43*	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
44*	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
45*	スポーツボランティアの養成	○	○	
46	カイザースラウテルン市長杯文京区少年サッカー大会	○		
47*	親子向けスポーツ教室	○		
48	ニュースポーツ教室・大会	○		

*がついている事業は再掲

(2) 分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 スポーツを身近に感じる機会の拡充	14事業	2事業
【分野別目標2】 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進	14事業	9事業
【分野別目標3】 スポーツ活動を支える環境の整備	14事業	10事業
【分野別目標4】 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流	6事業	0事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充

前年度の課題と今後の対応・方向

①事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援

「初心者向けスポーツ教室」について、参加者が教室終了後も競技を継続できる仕組みが必要である。各スポーツの関連団体と連携しながら、モチベーションを保つための取り組みについて検討する必要がある。

②地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

親子で参加できる初心者向け教室が中心だが、継続してスポーツを行いたい参加者へのフォローアップ教室等があるとよい。親子向けということで、区報掲載及び学校等へのチラシ配布が主な広報であるが、幅広い年代に周知する異なる手法がないか、検討する必要がある。

【取組状況の評価】

①事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援

従来の初心者向けスポーツ教室に加え、各団体等との協働により、「あすチャレ！運動会」や「BUNKYO RUGBY DAY」等の新たな競技に触れられる取り組みを実施し、区民が自主的・自発的にスポーツに取り組む機会が提供されている。

《関連事業 2、3、8、9、10、11》

②地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

各スポーツの関連団体と連携し、経験者向けのバスケットボールクリニックが実施されたほか、ランニングクリニックにおいては、初心者コースに加えステップアップコースが設置されるなど、継続して行いたい区民に対して、フォローアップが実施されている。東京2020大会に向けては、オリンピック・パラリンピック子ども新聞事業を各号10万部発行し、新聞折込で配布するなど幅広く区民に周知されている。

《関連事業 5、6、7》

【課題と今後の対応・方向】

(1)スポーツの楽しさを知る機会の創出

若年層のスポーツ機会の拡充や高齢者でも取り組めるスポーツ教室の実施等、ライフステージ・スタイルに応じて、すべての人がスポーツの楽しさや価値を実感できる取り組みを進める必要がある。また、「見る」「支える」スポーツ環境のさらなる充実に向け、ボランティアへの区民参加の促進やスポーツ指導者の養成等を進めることにより、担い手の安定的な確保と技術向上や知識の深化を図られたい。

(2)スポーツ観戦の場と機会の拡充

協定締結団体や区にゆかりのあるチームや選手の観戦・応援イベント等をより一層周知することにより参加を促し、スポーツの魅力と得られる感動の共有を図られたい。東京2020大会期間中は、新型コロナウイルス感染予防対策等を講じた上で、コミュニティライブサイト等の実施により、区民が一体となって大会の感動と興奮を共有できるよう努められたい。

(3)プロスポーツ等団体との連携・協力

東京2020大会に向けて高まってきたスポーツへの関心が、一過性のものにならないよう、引き続き関係団体と協力し、障害者スポーツの普及や理解の促進等に努められたい。また、区民がボランティア参加で培った「支える精神」や、ホストタウン事業を通じて深められた国際理解などを、大会後もレガシーとして継承できるよう努められたい。

【参考事業】

■事業9 あすチャレ！運動会「誰もが主役で参加できる運動会を作ろう」

事業概要		
日本財団パラリンピックサポートセンターが実施するプログラム「あすチャレ！運動会」を活用し、パラリンピック種目を含む様々な競技を体験する場を提供する。		
事業実施内容	事業実績	
日時:8月18日(日) 会場:文京スポーツセンター 参加者数:71人 【実施種目】 ・シッティングバレーボール ・ゴールボール ・車いすポートボール ・車いすリレー	当初予定数	100人
	実績数	71人(-)(-)
	申込数	-
成果	課題	
参加者が、障害者にとってのバリア(障壁)への気付きやコミュニケーション、チームプレーの大切さ等を共有し、全員で協力し合いながら運動会を作り上げたことで、スポーツを通じて障害への理解を深めることができた。	障害者スポーツの認知度向上に向けて、競技の魅力を発信していく必要がある。	
	課題解決に向けた取組 障害者スポーツを体験・理解する機会を充実させるため、様々な競技団体との連携を強化する。	

■事業6 オリンピック・パラリンピックこども新聞

事業概要	
オリンピック・パラリンピックを多面的に捉え、選手や競技の紹介、大会開催に関わる人々や仕事、国際大会が及ぼす影響など、様々な視点からこどもたちが感じ、学んだことを紙面を通じて伝える。	
事業実施内容	事業実績
年間2回、各号約10万部を発行 【第7号(8月27日)の掲載内容】 BUNKYO RUGBY DAY、JOCオリンピック教室郊外編、日本×ドイツ親善交流演奏会、和太鼓グループ「鼓童」、「いだてん」トークショー、Let's 55、国際女性会議WAW!、パラ応援コンサート等 【第8号(12月27日)の掲載内容】 ハンドボール女子日本代表、第11回太田雄貴フェンシング大会、パラバド イギリス代表、パラ1年前、パラアーチェリー永野美穂選手、文京シビック柔道教室、男子チアSHOCERS、文京クリスマスマーケット2019等	当初予定数 ー
	実績数 こども記者及び編集サポーター登録数 82人(100人)(70人)
	申込数 ー
成果	課題
オリンピック・パラリンピックに関するスポーツ、文化芸術及び国際交流など様々な分野について、こども記者の様々な視点を通じ、新たな気付きを生み出すことにより、多文化共生を推進し、東京2020大会の機運を醸成することができた。	昨年よりこども記者の登録者が減り、また記者の記事作成をサポートできる編集サポーターが不足している。
	課題解決に向けた取組 区立小・中学校や区内大学と連携を強化するために、連絡会議の場で周知を図るなど、事業の認知度を高め、こども記者及び編集サポーターの登録者を増やす。

(2)分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

前年度の課題と今後の対応・方向

①地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充

「地域スポーツ団体の支援・育成」について、スポーツ推進委員やスポーツリーダーに派遣依頼のある競技種目に偏りがあるため、指導可能な競技種目について地域団体に周知する必要がある。

②障害者スポーツ体験教室の実施

障害者スポーツ教室は、応募者が定員を充足しない場合があるので、周知先を再考し、障害者スポーツに関心がある層に確実に情報を届ける必要がある。また、日本財団パラリンピックサポートセンター解散後においても障害者スポーツ教室を維持するため、各競技団体との連携を保持する方策を検討する必要がある。

【取組状況の評価】

①地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充

競技力向上や健康維持、豊かなスポーツライフの実現等、様々な要望に対し、スポーツ推進委員等と連携して柔軟に対応されているが、引き続き幅広い種目の周知に注力し、派遣実績の向上に努められたい。

《関連事業 24》

②障害者スポーツ体験教室の実施

ブラインドサッカーや車いすバスケットボールなどの各団体と連携し、体験会や研修等を実施することにより、誰もが気軽に楽しむことのできる障害者スポーツの普及振興に取り組んでいる。今後も、障害者スポーツの紹介や体験機会の充実等により、誰もが一緒に楽しめる機会の提供に努められたい。

《関連事業 27》

【課題と今後の対応・方向】

(1)スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開

だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しめる環境の更なる整備に向けて、トップアスリートを身近に感じられる機会を提供するほか、講習会や相談事業などを積極的に展開するなど、スポーツへの関心を喚起する必要がある。

(2)多様なニーズに対応するプログラムの提供

競技志向や娯楽志向等のニーズを把握し、体育協会及びスポーツ推進委員等とともに、今後注力していくべき競技の確認や、質の高い技術・技能を有する指導者の養成や確保、中長期的な目標に基づいた継続性ある計画的なプログラムの提供も必要である。

(3)スポーツをともに楽しむ意識の醸成

ウォーキングやボッチャなどの性別、年齢等に関わらず、誰もが幅広く参加できるスポーツの積極的な普及と推進に努められたい。

(4)障害者スポーツの普及振興

障害者スポーツに触れることは、社会や日常の中で障害者が抱えている悩みや課題についての気付きにつながり、障害者への理解と共生社会の実現に大変有意義であることから、引き続き各競技団体と連携し、障害者スポーツの紹介や体験機会の充実、誰もが一緒に楽しめる機会の提供に努められたい。

【参考事業】

■事業24 スポーツ指導者地域派遣

事業概要		
区民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を促進し、スポーツ・レクリエーション活動を行う団体を育成する。		
事業実施内容	事業実績	
派遣件数:127単位 ・スポーツ推進委員:69単位 ・スポーツリーダー:58単位 ※派遣回数:1団体につき年間4単位(1単位2-3時間程度)	当初予定数	—
	実績数	127単位(124単位)(126単位)
	申込数	127単位
成果	課題	
昨年度に比べわずかながらであるが、派遣単位数が増加し、新規団体からの申請も増加した。	実績が少ない競技への派遣を増加させるため、周知に注力する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	区ホームページ、SNS等を有効に活用し、認知度を高めるほか、社会教育関係登録団体への情報提供や各種事業実施時等においても、本制度を周知する。	

■事業27 障害者スポーツ体験教室

事業概要		
障害の有無に関わらず、スポーツを楽しむ機会を確保するため、様々な障害者スポーツを「する」「観る」事業を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
実施事業数:3事業 【実施内容】 ・車いすバスケットボール体験 ・ブラインドサッカー東日本リーグの試合観戦及びユニバーサルスポーツ体験 ・「文京サッカーチャレンジDay」	当初予定数	—
	実績数	3事業(5事業)(4事業)
	申込数	—
成果	課題	
スポーツ指導者向けの体験会を通じて、指導者としての障害者スポーツへの関わりを考える契機となった。 また、試合観戦や各種体験会を通じて、幅広く区民に障害者スポーツの魅力を伝えることができた。さらに、参加者一人ひとりが、障害者が日常生活で直面する障壁や抱える悩みに対して気付き、考え、行動する契機となった。	誰もがスポーツを楽しめる環境整備に向け、様々な団体と一層の連携・協働を図り、パラスポーツの魅力や競技の紹介など、幅広く情報を発信していく必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	参加者へのアンケートの実施等により、ニーズや状況を把握し、事業内容や周知について検証・改善する。	

(3)分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

前年度の課題と今後の対応・方向

①スポーツ活動を支える人材の育成・確保

スポーツ推進委員は、今後も積極的な活動を継続する必要があることから、意欲があり、継続的に活動できる人の確保に努められたい。また、スポーツリーダーは、地域でのスポーツ活動を支える重要な役割を担っているため、現在活動している人の意向をくみ上げ、育成を進めてほしい。

【取組状況の評価】

① スポーツ活動を支える人材の育成・確保

地域でのスポーツ活動の核となるスポーツ推進委員について、各団体に推薦を依頼し、意欲的かつ安定的に活動できる人材が確保されているが、更なる確保に向けて、引き続き、各団体に多面的なアプローチが必要である。

また、指導者養成講座やボランティア養成講座の実施等により、経験や知識を積み重ねる機会の充実を図っている。

《関連事業 34、35、36、37、38》

【課題と今後の対応・方向】

(1)気軽にスポーツを楽しめる環境の整備

区民の健康意識を高めていくため、子育て世代、高齢者等、各年代のライフスタイルに応じた細かなアプローチについて検討が必要である。また、既存施設の適正な維持管理のほか、だれもが安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、老朽化した屋外スポーツ施設の整備をさらに進められたい。

(2)スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化

競技力向上や競技の裾野拡大等に向け、各競技団体やスポーツ推進委員等とさらに連携し、中長期的な視点から目標を定め、計画的なプログラムによる研修会等を通じて、指導者のさらなる育成に努められたい。

(3)スポーツボランティア等の活動支援

スポーツ推進委員やスポーツボランティア等の継続的な活動に向け、区内大学や各団体との連携を図り、活動機会を積極的に提供していく必要がある。

(4)スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備

広報課や関係部署と連携し、HP・CATV・SNS等の様々な広報媒体による適時適切な情報発信に努めるとともに、区内の特色あるスポーツ団体や大学の持つ高度な情報やノウハウを活用するためのネットワーク構築、また、ライフスタイルに合わせ、いつでもどこでもスポーツに親しめる動画の配信等も検討されたい。

【参考事業】

■事業35 スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱

事業概要		
スポーツ推進委員やスポーツリーダー等を委嘱する。		
事業実施内容	事業実績	
委嘱人数:70人 ・スポーツ推進委員(定員33) 31名 【内訳】 体協加盟団体・健全育成会等からの推薦:23名、公募:8名 ・スポーツリーダー(定員なし、体協加盟団体、地域スポーツ団体等からの推薦) 39名	当初予定数	72人
	実績数	70人(71人)(74人)
	申込数	70人
成果	課題	
経験豊富なスポーツ推進委員やスポーツリーダーに、引き続き委嘱することができた。	スポーツ推進委員は定員を満たしていないため、継続して適した人材の確保に努める必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	推薦依頼先の団体・学校等に対して、より積極的に働きかけるとともに、委員及び委員会の役割や活動の効果的な広報に注力する。	

■事業30 六義公園運動場管理棟等の改築

事業概要		
六義公園運動場管理事務所や小石川運動場等の屋外運動場施設について、良好な環境に整備し、だれもが安全で快適なスポーツを楽しむことができる施設とする。		
事業実施内容	課題	
【六義公園運動場】 改築期間：令和元年6月から令和3年1月まで 改築内容：だれでもトイレの整備、エレベーター設置等によるバリアフリー化、全館空調（冷暖房）設備の整備等	当初予定数	—
	実績数	—
	申込数	—
成果	課題	
埋蔵文化財発掘調査や新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で工期が延長となったが、仮事務所を設置し、仮囲いの中で工事をすること等により、長期間休場することなく工事が進められている。	小石川運動場、後楽公園少年野球場及び竹早テニスコートの屋外施設で、グラウンドやコート等、施設の劣化が進んでいる。	
	課題解決に向けた取組	
	小石川運動場について、令和2年度にベンチシェルター及びベンチシートの設置や人工芝の部分改修を行う予定であり、その他屋外施設についても、今後、計画的に改修を行う。	

(4)分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

前年度の課題と今後の対応・方向

①スポーツボランティアの活動場所の拡充

「支える」スポーツの担い手としてのスポーツボランティアを、区が主催する事業だけでなく、区内大学・団体や、区外で実施される各種のスポーツイベントに派遣することにより、東京2020大会の気運醸成を図り、さらに大会後の活動につなげていく必要がある。

【取組状況の評価】

① スポーツボランティアの活動場所の拡充

幅広い年代が、スポーツを支える活動や支援の役割を果たすスポーツボランティアに登録しており、区外団体からの要請に基づく派遣など、その活動の裾野拡大や新たな活躍の場づくりに繋がっている。

《関連事業 45》

【課題と今後の対応・方向】

(1)スポーツを通じた仲間づくり

仲間とスポーツを行うことは、体力維持や健康増進などに加え、団結力や協調性の芽生えや、活動意欲の向上も期待できることから、社会教育関係登録団体への加入促進や情報発信に努められたい。

(2)スポーツを通じた交流

性別や障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを親しめる機会を提供し、世代間交流や地域間交流の促進と地域コミュニティの活性化に努められたい。

【参考事業】

■事業45 スポーツボランティアの養成

事業概要		
「支えるスポーツ」の担い手として、スポーツボランティアを登録、養成、派遣する。		
事業実施内容	事業実績	
スポーツボランティア登録者数:157人 令和元年度スポーツボランティア派遣人数:323人 スポーツボランティア養成講座受講者数:延べ20人	当初予定数	—
	実績数	ボランティア従事者数 延べ323人(472人)(300人)
	申込数	—
成果	課題	
登録者に対し、スポーツ事業・オリンピック・パラリンピック気運醸成事業を中心に、従事を依頼した。区外の自治体・ボランティア団体と連携し、区内で実施していない競技に参加することにより、高校・大学等の学生を中心に、新規のボランティア登録数が増加した。	東京2020大会の気運醸成及び大会成功の一翼となるよう、人材を確保するとともに、経験を積ませる必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	SNS等を活用した幅広い周知により、活動への参加を促すとともに、幅広い分野に対応できるよう、区主催以外の事業にも派遣を積極的に行う。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

スポーツ分科会座長 青木 和浩

① 分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の充実

前年度の課題も踏まえた評価をすると、今年度も多彩な取り組みを実施し、参加者が多い点を高く評価したい。さらに新規事業を行い、様々な年代へ周知されている点も評価をしたい。今後の課題として、区内の様々な団体等との連携もさらに深め、「する」スポーツだけではなく、「見る・支える」スポーツという観点から、新しい取り組みの検討が望まれる。

② 分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

前年度の課題を踏まえた評価をすると、今年度は、スポーツ推進委員を中心に課題の解決に向けて対応している点を評価したい。また、障害者スポーツの体験会事業も積極的に取り組んでいる点を評価したい。今後の課題として、体育協会及びスポーツ推進委員も含め、多くの関連する方々との連携を図り、様々な課題を解決していただきたい。また、障害者スポーツについては、体験会の実施だけではなく、共生社会に向けた事業内容の工夫にも期待したい。

③ 分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

前年度の課題を踏まえた評価をすると、今年度は、ハード面の改築工事などが進み、区民にとって有益な環境を提供している点を高く評価したい。また、ソフト面においてもスポーツ推進委員の活性化に着手している点を評価したい。今後の課題としては、スポーツボランティアの中から区のスポーツの振興に関わる人材の育成などが重要になるため、様々な視点から人材の育成に着手することを期待したい。

④ 分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

前年度の課題を踏まえた評価をすると、スポーツボランティアの登録数や派遣人数が多く、交流事業が充実している点を高く評価したい。今後の課題として、多様な参加者の仲間づくりや交流活動などの情報発信も含め具体的な取り組みを検討し、実施されることを期待したい。

⑤ 分野の総評

コロナ禍において、スポーツ参加の関わり方も大きく変わろうとしている。従来のような対面式のイベントだけではなく、オンラインなどの活用により、新たな参加者を増やすことも可能になると思われる。また、多様なニーズに対応できるよう、様々な視点からの情報発信やスポーツ活動の提供が重要と考える。スポーツ活動を支える環境整備は、ハード面、ソフト面共に進んでいる点を評価したい。また、スポーツボランティアの参加など、区内のスポーツ振興が活性化されつつある。今後は、この参加者を育て、区のスポーツ振興の中心となり、更なる活性化を目指していただきたい。

第4章 文化芸術分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 文化芸術分野における主要な事業

分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施	○	○	
2	I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト」～		○	
3	事業提携楽団によるコンサート	○	○	
4	小・中学生のための出前コンサート	○	○	
5	文の京コミュニティコンサート	○	○	
6	日本ドイツ親善交流演奏会			○
7	小・中学生のための歴史教室	○		
8	文京ミュージックフェスタ	○		
9	子ども俳句大会	○		
10	親子向けコンサート	○	○	
11	紙媒体による情報提供	○	○	
分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援				
12	「アートウォール・シビック」への作品展示	○		
13	観客参加型公演	○	○	
14	朗読コンテスト	○		
15	かるたの街文京を発信!		○	
16	まるキャンマーケット～夏の陣、冬の陣～			○
17	吹奏楽アンサンブルコンテスト	○	○	
18	楽器演奏指導	○	○	
19	舞台芸術創造事業(大ホール)	○	○	
20	舞台芸術創造事業(小ホール)	○	○	
21	シビックコンサート	○	○	
22	カレッジコンサート	○	○	
分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり				
23	史跡めぐり	○		
24	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	○	○	
25	文の京ワークショップ	○		
26	新・観潮楼歌会	○		
27	「文の京文化発信プロジェクト」	○	○	
28	盛岡市との友好都市提携記念事業			○
29	文京ふるさと歴史館友の会の支援	○		
30	文京ふるさと歴史館常設展示解説ボランティア	○		
31	森鷗外記念館解説ボランティア	○		
32	技能名匠認定事業	○		
33	「来て見て体験」文京の伝統工芸		○	
34	文京ふるさと歴史館特別展	○		

35	文京ふるさと歴史館収蔵品展	○		
36	森鷗外記念館特別展・コレクション企画	○		
37	映像資料調査・保存事業	○		
38	指定文化財等の保護・保存と管理	○	○	
39	文の京ミュージアムネットワーク	○		
40	コンピューターによる館内閲覧システム	○		
41	文京ふるさと歴史館だより・年報の発行	○		
42	森鷗外記念館ニュース・年報の発行	○		

(2) 分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり	11事業	5事業
【分野別目標2】 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援	11事業	0事業
【分野別目標3】 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり	20事業	8事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①能への理解を深める機会の創出

能プロジェクトは参加者が多く、限られた時間内で数種類の能の体験をしてもらうプログラムになっているため、流れ作業のように参加者を移動させてしまうことがある。能に対する一時的な関心の喚起も重要だが、関心を継続し、深掘りしていく機会を作っていくことも今後は重要である。

②事業提携団体の認知度の向上

区及び(公財)文京アカデミーと事業提携している団体について、区民の認知度が向上することで、地域とのつながりが生まれ、事業への参加も促進されることが考えられるため、周知に努められたい。

【取組状況の評価】

①能への理解を深める機会の創出

能プロジェクトの実施にあたり、鑑賞プログラムの演目を前年度から変更するとともに、体験プログラムに謡の体験を新たに盛り込むことで、すでに参加された方にも楽しめる内容となり、参加者の増に繋がっている。

《関連事業 2》

②事業提携団体の認知度の向上

区と(公財)文京アカデミーが事業提携している団体等のシビックホールでの公演は、年間を通じて開催しており、固定ファンが多く、安定的な来場者を得ている。また、(公財)文京アカデミーは、事業提携団体の協力により、親子が一緒に楽しめるコンサートを自主制作で開催しており、好評を得ている点などが、評価できる。大人だけでなく親子を対象にした事業を実施することにより、事業提携団体が広く区民に周知されている。

《関連事業 3、4、10、13》

【課題と今後の対応・方向】

(1)文化芸術への興味や知識を高める

事業提携団体によるシビックホールでの公演や小・中学校への出前コンサート等を通して、区民の文化芸術に対する興味・関心が高まり、事業への参加がさらに促進されることが考えられる。今後は、区民のニーズにあったプログラムの実施について検討する必要がある。

(2)だれもが参加しやすい仕組みづくり

(公財)文京アカデミーの自主制作による親子向けのコンサートを開催しており、来場者から好評を得ている。今後は、より多くの方にホール事業に参加してもらえるよう、対象者を拡大した新たなプログラムの検討が必要である。

令和2年度に実施している文京シビックホールリモートコンサート・シリーズは、外出の難しい方が気軽に参加できる取り組みであり評価できる。今後は一層周知に努められたい。

(3)多様な主体・媒体による情報提供の仕組みづくり

区報やホームページ、(公財)文京アカデミーの情報紙やホームページ、SNS等により、事業についての情報提供がされている。区民の興味・関心をさらに高め、事業への参加促進を図るため、公演内容の解説等、より踏み込んだ情報提供について検討する必要がある。

【参考事業】

■事業2 I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト～

事業概要		
子どもたちに区内の貴重な文化資源である能に興味を持ってもらえるよう、(公社)宝生会と連携し、「鑑賞」と「体験」を交えた能に係るプログラムを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
実施日:8月18日(日) 会場:宝生能楽堂 内容:能「小鍛冶」の鑑賞や能楽堂バックステージツアー、楽器・装束、謡、ARメガネの体験	当初予定数	320人
	実績数	259人(235人)(340人)
	申込数	442人
成果	課題	
子どもたちに普段あまり触れることのない能の鑑賞・体験の場を提供し、伝統文化に親しんでもらうことができた。	申込者は定員を超えており、参加者も増えているが、事前のキャンセルが多い。	
	課題解決に向けた取組	
	多くの子どもたちに参加してもらえるよう、実施内容や実施日時について改善を図る。	

■事業3 事業提携乐团によるコンサート

事業概要		
区及び(公財)文京アカデミーと事業提携を結ぶ、東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウインド・オーケストラの協力によりコンサートを開催する。		
事業実施内容	事業実績	
響きの森クラシック・シリーズ Vol.68 5月18日(土)実施 1,653名 Vol.69 9月14日(土)実施 1,644名 Vol.70 1月25日(土)実施 1,615名 フレッシュ名曲コンサート ランチタイムコンサート 5月10日(金)実施 269名 シエナ・ウインド・オーケストラによるコンサート 12月24日(火)実施 1,732名	当初予定数	6,796人
	実績数	6,913人(6,349人)(6,588人)
	申込数	—
成果	課題	
事業提携乐团である東京フィルの「響きの森クラシック・シリーズ」及びシエナ・ウインド・オーケストラの公演は、共に固定のファンが多く、共に繰り返し鑑賞するファンが増えており、来場者が増加している。	ホールの来場者を増やすため、さらなる顧客の獲得と定着を図る必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	公演の見どころガイドやYouTubeによる出演者インタビューなどをホームページに掲載し、ファンのすそ野を拡大する。	

(2)分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

前年度の課題と今後の対応・方向

①アートウォール・シビックの利用促進

アートウォール・シビックにおいて、例年展示を行っていた団体が、メンバーの高齢化等の様々な要因から作品制作が困難になり、応募ができなくなることもある。展示スペースの物理的な制約もある中で、新たな出展団体の開拓を行うなどの取り組みが求められる。

②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充

毎月シビックセンター区民ひろばで開催しているシビックコンサートは、ランチタイムに誰でも気軽に音楽を楽しめる機会を創出しているが、その時間に足を運ぶことのできる人にその機会が限られる。仕事や学校帰りの人も立ち寄れる夕方時間帯など、より多くの人が音楽に親しめる機会の拡充を検討されたい。

【取組状況の評価】

①アートウォール・シビックの利用促進

福祉関係団体や区内学校に個別に声掛けをし、事業趣旨等の説明を行ったことで、前年を上回る申込みに結びつけることができています。

《関連事業 12》

②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充

区民ひろばで開催するシビックコンサートやホールで開催するカレッジコンサート、区内文化施設等で開催するコミュニティコンサート等、無料で観覧できる公演が複数の場所で催されている。また、平日だけでなく、週末に開催している事業もあり、誰でも身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会が提供されている。

《関連事業 5、17、21、22》

【課題と今後の対応・方向】

(1)鑑賞・参加・創造・発表の機会と場所の充実

次年度からのシビックホール改修に伴い、新たな鑑賞・発表場所の確保が求められる。区内に所在する文化芸術施設に協力してもらうことにより、広く区民に文化に触れる機会を創出されたい。

(2)文化芸術活動をする人・団体への支援

コロナ禍においても区民や団体等が文化芸術活動を行うことができるよう、区内文化芸術活動団体等と連携を図り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の調整などの支援を行う必要がある。

(3)人材の育成と活動支援

文化芸術活動の担い手の高齢化が進んでおり、新たな担い手を育成するため、子どもの頃から文化に触れるきっかけとなる事業を展開するとともに、伝統文化親子教室等を実施する区内文化芸術活動団体等への支援を行う必要がある。

【参考事業】

■事業12 「アートウォール・シビック」への作品展示

事業概要		
若手芸術家の育成を図るため、シビックセンターの壁面を利用して平面美術作品の展示を行う。		
事業実施内容	事業実績	
11回実施(3月は中止) 出品者166人、出品点数427点	当初予定数	—
かるたの街文京を発信！パネル展、なが〜いながいぞ展、文京の街角ノスタルジア写真パネル展、文の京跡見学園女子大学書道展、都立工芸高校デザイン科紹介パネル展、まどろみセブテンバー、本郷美術学院展、Will Jiang展、きずな一と/リアン文京、美it展、民族文化を描く展	実績数	166人(86人)(98人)
	申込数	166人
成果	課題	
区民に作品発表の場を提供するとともに、来庁者が気軽に美術作品に触れる機会を提供することができた。	前年度と比較すると、出品者は増えている反面、出品者が固定されつつある。	
	課題解決に向けた取組	
	出品実績が無い高校・大学や施設等に個別に声掛けし、新たな出品者の参加を促すことで事業の活性化を図る。	

■事業21 シビックコンサート

事業概要		
クラシック、ポップス、ジャズ等、様々なジャンルの音楽を、区内の大学及び専門学校生が演奏するランチタイムコンサートを実施する。平成28年度より、財団の指定管理事業として実施。		
事業実施内容	事業実績	
【平成8年度～】 日時 毎月1回開催(原則第4水曜日)12:15～12:45 会場 区民ひろば 観覧者数 延べ2,281人 2・3月については、新型コロナウイルスにより中止	当初予定数	年12回
	実績数	年10回(年12回)(年12回)
	申込数	—
成果	課題	
出演する学生にとって、観客の前で演奏する絶好の機会となっている。また、オープンスペースでの無料コンサートであり、誰でも気軽に音楽を楽しむことができる。	コンサートのプログラムが固定化されている傾向にある。	
	課題解決に向けた取組	
	出演団体と協議し、内容に変化を持たせる。	

(3)分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実

文京ふるさと歴史館の特別展は、毎回とても質の高いものになっているが、展示作品の数や展示方法などを工夫し、だれでも楽しめるように取り組んでほしい。また、関係者向けに作成している年報は、一般の方が読んでも興味深い内容であるため、より多くの方に施設を知ってもらうツールとして必要である。

②観光分野との連携

博物館を文化資源としてだけでなく、観光資源として活用する流れもあり、観光分野と連携した事業の企画などが今後求められる。

【取組状況の評価】

①文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実

特別展及び収蔵品展とも、テーマの設定や展示方法に工夫を凝らすことで、多くの方が興味を持ち、楽しめる展示が行われている。年報については、図書館で公開されているが、一層周知が必要である。

《関連事業 34、35、41》

②観光分野との連携

文京ふるさと歴史館を観光デジタルスタンプラリーのスポットの一つとするなど、観光分野との連携が図られているが、引き続き活用方法の検討が必要である。

【課題と今後の対応・方向】

(1)地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、史跡めぐり・森鷗外関連の講演会・歴史館特別展などを実施することにより、区民が地域に親しむきっかけを提供されたい。

(2)「文の京」の伝統文化を守り、伝える人材の育成と活動支援

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、文京ふるさと歴史館及び森鷗外記念館の解説ボランティアは活動を休止している。ボランティアによる対面での解説以外の伝える活動を支援する必要がある。

(3)文化資源の再発見と保存・活用の推進

文京ふるさと歴史館及び森鷗外記念館は、今後の周年事業等を機会として、観光をはじめ、教育等の分野とも連携を図り、地域の魅力をより多く発信されたい。

(4)文化資源に関する情報収集・整理と発信

文化資源の現物を見ること、現地に行くことの重要性を踏まえつつ、動画の発信などにより、より多くの方に情報を提供する方策を検討する必要がある。

【参考事業】

■事業34 文京ふるさと歴史館特別展

事業概要		
文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた特別展を開催する。		
事業実施内容	事業実績	
テーマ:ぶんきょう写真帖一時を感じる－ 会期:10月26日～12月8日	当初予定数	－
	実績数	4,138人(3,837人)(2,859人)
	申込数	－
成果	課題	
昔の生活やまちの様子を展示することによって、区の魅力をあらためて認識してもらうことができた。	来館者は漸増の傾向にあるが、来館者を増やす企画について検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 これまで光のあたりにくかった文化資源を活用し、より魅力ある展示を行うとともに、ホームページや動画配信などで興味・関心を引く周知を行う。	

■事業41 文京ふるさと歴史館だより・年報の発行

事業概要		
文京の歴史・文化に関する情報や、歴史館の事業、調査研究成果等について周知する。		
事業実施内容	事業実績	
歴史館だより 6,000部(年1回)発行 年報 500部(年1回)発行	当初予定数	6,500部(歴史館だより6,000部 年報500部)
	実績数	6,500部(6,500部)(6,500部)
	申込数	－
成果	課題	
区民・関係機関・来館者などに事業や本区の歴史・文化に関する情報等を周知できた。	歴史館だよりは現在2色刷りであるが、より興味を持って見てもらう工夫が必要である。年報についても、より多くの方に見てもらえる機会を増やす必要がある。	
	課題解決に向けた取組 歴史館だよりは、現物の色を伝える工夫としてカラー化等を検討する。年報は、バックナンバーで残部のあるものを配架し、希望する来館者が持ち帰れるようにするとともに、ホームページに掲載する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

生涯学習・文化芸術分科会座長 田中 雅文

① 分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

能への理解を深める事業と事業提携団体の公演については、参加者増や固定ファンの定着などにより、文化芸術に親しむ区民層の広がりがみられる。今後は、区民のニーズにあった事業の実施、情報提供の方法の刷新などに力を入れる必要がある。

② 分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

アートウォール・シビックの利用促進及び身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充は、順調に進んでいるとみてよい。今後は、新型コロナウイルスへの対応の一環として、オンラインで鑑賞できるような仕組みを整える必要がある。

③ 分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

文京ふるさと歴史館においては、幅広い層の利用促進がなされている。今後は、観光分野との連携、人材養成、新型コロナウイルス対応などを充実させることにより、「文の京」の文化の伝承を充実したものにしていく必要がある。

④ 分野の総評

文化芸術の普及と継承について、さまざまな工夫を凝らしていることは評価できる。今後は、観光や教育等の他分野との連携、コロナ禍における文化芸術の普及策の検討など、多様な視点にもとづく展開が期待される。

第5章 観光分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 観光分野における主要な事業

分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	観光写真コンクール	○		
2	肥後細川庭園周辺地域の魅力創出事業	○		
3	展望ラウンジ観光拠点化事業	○		○
4	まち並みウォッチング	○		
5	文の京都市景観賞	○		
6	歴史的建造物の活用	○		
7	文の京ゆかりの文人支援事業	○		
8	文の京ゆかりの文人銘菓	○		
9	観光リーフレット作成	○	○	
10	コミュニティバス「Bーぐる」運行事業	○		
11	自転車シェアリング事業	○	○	
12	無料公衆無線 LAN の整備	○	○	
13	観光インフォメーション	○	○	
14	観光 PR ポスター作成	○		
15	文京区デジタルジャーニー～展望ラウンジからつながる観光情報発信～		○	
16	インバウンド歓迎戦略2019～外国人まるごとおもてなしプラン～			○
分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進				
17	観光ガイド事業	○	○	
18*	歴史的建造物の活用	○		
19*	文の京ゆかりの文人支援事業	○		
20*	文の京ゆかりの文人銘菓	○		
21	フィルムコミッション事業	○		
22	花の五大まつり等助成	○	○	
23	国内交流事業	○	○	
24	食材購入費補助事業			○
分野別目標3 持続可能なまちづくりを支える仕組みづくり				
25	観光協会振興助成	○		
26	バリアフリーの推進	○		
27	区内統一案内標識整備	○		
28	外国人おもてなし隊育成事業	○	○	

*がついている事業は再掲

(2) 分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出	16事業	2事業
【分野別目標2】 情報の収集・活用による来訪の促進	8事業	6事業
【分野別目標3】 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり	4事業	3事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出

前年度の課題と今後の対応・方向

①観光写真コンクールの改善

165万人が来場する花の五大まつり等において、多くの方が写真を撮っているはずだが、応募点数は461点であり、写真コンクールへの応募に至っていないケースが多いと考えられる。スマートフォンで撮った写真を気軽に応募できるようにするなど、応募点数が増加する工夫を期待する。また、外国人にとって魅力的な写真の掲載や外国人部門を設けるなど、外国人の視点を積極的に取り入れることも検討されたい。

②新しい視点を取り入れた観光リーフレットの作成

観光ガイドマップを刷新し、配布部数は、18,000部以上増加した。今後は、観光スポット等の知見を深めるという切り口だけでなく、スポーツや健康等の要素も取り入れ、観光とスポーツをリンクさせた内容も盛り込んだガイドマップの作成について検討されたい。

【取組状況の評価】

①観光写真コンクールの改善

観光写真コンクールの入選作品を区の観光PRポスターへ活用しているほか、写真素材として各種媒体に提供するなど、本区の魅力を生き生きと伝える役割を果たしている。外国人の視点を取り入れる取り組みについては、引き続き検討が必要である。

《関連事業 1》

②新しい視点を取り入れた観光リーフレットの作成

文京グルメマップは、3年に1度の見直しに合わせ、リーフレットから冊子タイプに刷新し、掲載情報の充実を図るとともに、日本語のWEB版を全面改修したことにより、まち歩きやスマートフォンユーザー等の利便性が向上している。観光ガイドマップは、スポーツや健康等の内容の充実に向けて、引き続き検討が必要である。

《関連事業 9》

【課題と今後の対応・方向】

(1)文京区の魅力や個性につながる新たな資源の発掘

観光写真コンクールは、新型コロナウイルス感染症の影響により、写真の募集は行わず過去の入賞作品等の展示を行う「文京区観光写真展」として行うこととしたが、今後は、SNSを活用した新たな応募方法や外国人部門を取り入れる等、区内外からの応募を促進する必要がある。

(2)「文の京」ならではの魅力の向上と新たなストーリーの展開

区民が愛着や誇りを持ち、文京区ならではの新たな魅力を見出すため、ストーリー性のある観光土産品を検討する必要がある。

(3)区内の回遊性を向上させる誘導の環境づくり

区内の公共交通不便地域の解消のため、コミュニティバス「Bーぐる」の新規路線を令和3年度上半期に運行開始に向け、関係機関との協議・調整を進め、区内の回遊性を高める必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響による交通需要の変化に注視しながら、老朽化したバス車両の更新やイベントの実施により、既存路線の利用者数の維持・拡大が必要である。

(4)文京区の魅力や個性を伝える仕組みづくり

スマートフォンの普及等により、ホームページやSNS等による情報収集が主流となり、WEBを活用した情報発信を強化する必要がある。

【参考事業】

■事業1 観光写真コンクール

事業概要		
区内の名所・旧跡等の歴史文化遺産や文京花の五大まつり等の風物詩、現代のまちの表情を広く紹介する観光写真コンクールを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
第58回 文京区観光写真コンクール (募集期間)8月1日～9月21日 (表彰式) 11月8日 (写真展) 11月8日～11月10日	当初予定数	—
	実績数	514点(461点)(395点)
	申込数	514点
成果	課題	
応募点数が前年度に比べ50点以上増加し、文京区の魅力を多方面にPRすることができた。	本区の魅力発信に向け、効果的な実施方法を検討するとともに、区民以外の認知度を高める必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	SNSを活用した写真コンクール等の実施を検討するとともに、周知方法の工夫を図り、区外からの応募を促進する。	

■事業9 観光リーフレット作成

事業概要		
区内観光施設や名所・旧跡を紹介する日本語版及び外国語版のリーフレット等を作成する。		
事業実施内容	事業実績	
・観光ガイドマップ 日本語版58,000部、英語版6,000部、中国語版(簡体字)2,000部、中国語版(繁体字)2,000部、ハングル版1,000部を作成 ・文京グルメマップ(全面改訂) 日本語版80,000部(外国語版はWEBのみ)作成	当初予定数	—
	実績数	149,000部(107,000部)(126,000部)
	申込数	—
成果	課題	
観光リーフレットをシビックセンター1階観光インフォメーション及び25階展望ラウンジ並びに東京シティアイ等での配架のほか、区内観光施設や宿泊施設、イベント等で配布することにより、区内外へ本区の情報を広く発信することができた。	区の魅力をよりわかりやすく伝えるため、掲載コンテンツの充実を図る必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	既存のガイドマップが多くの人に求められるものにするため、WEBとの連動や、人気の高いアニメコンテンツと連携する。	

(2)分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進

前年度の課題と今後の対応・方向

①区と友好関係にある自治体との交流事業の拡充

区と友好関係にある自治体とのスポーツ・農業体験等のイベントを通じ、住民同士の交流を進めることで、相互の自治体に観光で訪れる動機を高める必要がある。

②区外への広報の促進

民間企業等へのパブリシティの方法を工夫し、区外に向けた情報発信を積極的に行うことにより、フィルムコミッション事業及び文京花の五大まつり等の周知や、区への来訪者の増加につなげる必要がある。

【取組状況の評価】

①区と友好関係にある自治体との交流事業の拡充

石川県金沢市及び熊本県玉名市とそれぞれ相互協力等に関する協定を締結したことにより、今後の国内交流の新たな広がり期待する。

文京区国内交流・連携事業補助事業では、区内の団体が全国各自治体の団体と文化やスポーツ関連の事業を通じて相互交流を深めることができている。

文京区国内交流自治体食材購入費補助事業では、食を通して協定等締結自治体の認知度向上に寄与している。

《関連事業 23、24》

②区外への広報の促進

フィルムコミッション事業では、区有施設がメディアで取り上げられることにより、区の魅力を多方面に発信することができている。

《関連事業 21》

【課題と今後の対応・方向】

(1)区内外における文京区の観光ニーズの把握

観光ガイド事業は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた実施方法を検討するとともに、観光ガイドが持つ豊富な知識を生かした新たな事業の検討が必要である。

(2)文京区の地域ブランド力向上

文京区の地域ブランドを向上させ積極的にPRしていくために、区民及び来訪者等のニーズを捉えた観光土産品を検討する必要がある。

(3)効果的な双方向の観光情報発信

フィルムコミッション事業は、多くのメディアに対し、広く区内のロケーションを発信するため、区有施設だけでなく民間施設の情報の収集に努められたい。

(4)活気ある交流の仕組みづくり

文京区国内交流自治体食材購入費補助事業交付決定店舗を巡る「食めぐりスタンプラリー」の実施等により、協定等締結自治体の認知度向上及び魅力周知を図り、更なる住民間の交流促進につなげていく必要がある。

【参考事業】

■事業21 フィルムコミッション事業

事業概要		
映像やドラマ等のロケーション撮影を積極的に誘致するとともに、円滑なロケーション撮影を行うための各種申請、調整等のサポートを行う。		
事業実施内容	事業実績	
撮影協力実績:14件	当初予定数	—
	実績数	14件(9件)(5件)
	申込数	—
成果	課題	
区有施設がメディアで取り上げられることにより、区の魅力を多方面に発信することができた。	より多くのメディアに対し、広く区内のロケーションを発信するとともに、スムーズなサポートを行い、申請時の負担軽減を図る必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	区内民間施設情報の収集を行うとともに、関係部署と迅速な情報共有を行い、撮影に向けた調整等をサポートする。	

■事業24 食材購入費補助事業

事業概要		
協定等締結自治体と食を通じた交流の活性化を図り、住民間の交流の促進につなげるため、区内で営業する飲食店が、同自治体で生産された食材を活用して料理を提供した際に要した費用の一部を補助する。		
事業実施内容	事業実績	
補助件数:10件、補助金額:365,000円	当初予定数	10件
	実績数	10件
	申込数	14件
成果	課題	
協定等締結自治体産の食を通じて、多くの区民に協定等締結自治体の魅力を周知することができた。	本補助事業及び交付決定店舗を幅広く周知し、より多くの区民に区の協定等締結自治体を認知してもらう必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	補助内容の充実を図るとともに、交付決定店舗を巡るスタンプラリーの実施等により、協定等締結自治体を知ってもらう機会を増やす。	

(3)分野別目標3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①効率的な事業の実施

観光協会と連携している事業については、評価や効果測定を可能な範囲で行い、その結果を踏まえた効率的な事業の実施が必要である。

②区内企業との連携

社会貢献活動に熱心な区内の企業と連携することで、取り組みの幅が広がるのではないかと。そのためには、区内企業との接点を持つ機会を創出する必要がある。

【取組状況の評価】

①効率的な事業の実施

観光協会と共催で実施したSky View Lounge BARは、毎月の定例的な開催により、多くの飲食店等が出店し、魅力の高いイベントとなった。また、入場者数も安定し、本区の観光振興の発展に係る事業の充実につなげることができた。

《関連事業 25》

②区内企業との連携

区内企業と連携した事業の構築に向け、引き続き情報収集に努めながら検討を進める必要がある。

【課題と今後の対応・方向】

(1)観光を通じた区内外のネットワーク環境の構築

新型コロナウイルス感染症により影響を受けた各種まつりの復興や観光振興につなげるため、観光協会や各まつり実行委員会等の地域団体との連携を密にする必要がある。

(2)安全・安心で優しいまちを実現する環境づくりの推進

バリアフリーを推進するため、文京区バリアフリー基本構想重点整備地区別計画に掲載された特定事業の進捗を把握し、着実に実施する必要がある。

(3)観光まちづくりにおけるホスピタリティの醸成

「外国人おもてなし英語力UP講座」は、外国人講師が、すべて英語で進行し、区民の実践的なおもてなし力の向上につながった。今後は、受講者が本講座で学んだ内容を日常生活の中で実践できることを期待したい。

【参考事業】

■事業25 観光協会振興助成

事業概要		
文京区観光協会の事業経費等の補助を行い、観光振興と地域の活性化を図る。		
事業実施内容	事業実績	
まつり等観光PR、観光写真コンクール等の事業運営費及び事務局職員人件費等の補助	当初予定数	—
	実績数	—
	申込数	—
成果	課題	
観光協会が実施する事業に補助することにより、事業の充実が図られ、本区の観光振興につなげることができた。	観光振興の更なる充実に向け、観光協会がより主体的に事業に取り組めるよう支援する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	新たなニーズやターゲット層を掘り起こすため、SNS等を活用した情報発信を充実する。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

観光・交流分科会座長 山田 徹雄

① 分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出

分野別目標1は、16件の事業を実施し、それぞれの事業を通じて、文京区の魅力の創出に寄与している。観光写真コンクールの入選作品の掲出を通じて、文京区の魅力を視覚的に伝える役割を果たしている。観光リーフレットの刷新及びWEB版の改良を通じて、その利便性が向上した。同リーフレットは、日本語版に加えて、英語版、中国語版(簡体字及び繁体字)、ハングル版をも作成している。その他の事業をも加え、目標を十分に達成していると評価できる。

② 分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進

分野別目標2は、情報の収集・活用によって来訪を促進することにある。友好関係にある自治体との交流事業には、他の自治体で生産された食材を文京区の飲食店が活用する事業が含まれ、斬新な視点が評価できる。また、フィルムコミッション事業によって区内の施設の魅力が伝えられている。

③ 分野別目標3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり

観光協会との連携事業である Sky View Lounge BAR は、多くの飲食店等が出店しており、観光振興との関わりにおいて、持続的な効果を生み出している。区内企業との提携事業については、なお実現の努力を促したい。

④ 分野の総評

観光分野の各事業は、従来からの継続事業に様々な改善を重ね、充実した活動へと進化していると評価できる。

コロナ禍という現状を踏まえ、コロナ後を展望しつつ、今後は抜本的な見直しが迫られることを付記したい。

第6章 国際交流分野の点検・評価

1. 対象事業

(1) 国際交流分野における主要な事業

分野別目標1 国際理解を育む機会づくり		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	地域連携活動事業	○	○	
2	国際理解教育の推進	○	○	
3	国際交流フェスタ	○	○	
4	英語観光ガイド	○	○	
5	JETプログラムを活用したCIRの導入			○
6	ドイツ料理の日・ホスタウン給食キャラバン～			○
7	文京クリスマスマーケット2019			○
8	文の京再発見 with 国際交流員 ドイツの言葉と文化に触れる～			○
9	姉妹都市等との交流	○	○	
10	海外都市との交流の活性化	○		
11	ホームステイ生徒交換事業	○	○	
12	区内大学、ボランティア団体等との協働・連携	○	○	
13	生涯学習講座での国際理解推進	○		
分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり				
14	文京区紹介映像多言語版の公開	○		
15	外国人の日常生活支援のための多言語化	○		
16	通訳クラウドサービス活用による外国人相談等	○		
17	図書館における外国語の新聞・雑誌の提供	○		
18	配布物の多言語化(スポーツ振興課)	○		
19	配布物の多言語化(リサイクル清掃課)	○		
20	わかりやすいホームページの構築	○		
21	わかりやすいまちの表示	○		
22	防災対策での多言語対応	○		

(2) 分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 国際理解を育む機会づくり	13事業	3事業
【分野別目標2】 外国人が快適に過ごせる環境づくり	9事業	4事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1)分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①事業目的の明確化

国際交流フェスタの目的が抽象的であり、ターゲットを絞り込めていないため、事業の効果を判断することが難しい。事業に参加する外国人のニーズを把握する必要がある。

②子どもたちが海外経験を積む機会の創出

姉妹都市であるドイツ・カイザーズラウテルン市とのホームステイ事業は、応募人数も多く、区民の関心も高いが、ドイツ側の受け入れ先が限られるなど、事業の拡大が難しい状況である。そのため、ドイツ以外の国でも、子どもたちが海外経験を積むことができるよう、多角的な視点による検討が必要である。

また、多文化共生社会に対応できる人材を育成するため、国際交流フェスタ等の事業において、小中学生が外国人とコミュニケーションを図る機会の提供を検討する必要がある。

③新たな情報発信方法の導入

外国人の参加率が低い事業については、情報が十分に行き届いていない可能性も考えられるため、外国人がよく利用するメディアで情報発信するなど、低コストで導入できる方法を検討する必要がある。

【取組状況の評価】

①事業目的の明確化

国際交流フェスタは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催直前で中止となったが、実行委員会において、本事業の趣旨を共有し、来場者へ明確に伝えるための検討が行われたことは評価できる。

《関連事業 3》

②子どもたちが海外経験を積む機会の創出

文京クリスマスマーケットで実施した、姉妹都市ドイツ・カイザーズラウテルン市に関するクイズ形式のスタンプラリーでは、多くの子どもたちが楽しく同市について知ることができ、海外への興味・関心につながっている。一方、子どもたちが、ドイツ以外の国において、海外経験を積むことができるよう、引き続き検討が必要である。

《関連事業 1》

③新たな情報発信方法の導入

英語観光ガイド事業は、ツアー参加者の増加に向け、留学生受入れ施設や日本語学校への周知を強化したことは評価できる。引き続き、新たな情報発信についても検討を進められたい。

《関連事業 4》

【課題と今後の対応・方向】

(1)交流の機会の拡充

英語観光ツアーは、開始から10年以上が経過し参加人数が減少傾向にあるため、区内在住・在学外国人のニーズを把握し、実施方法等を検討する必要がある。

国際交流フェスタは、新型コロナウイルス感染症により、接触を伴う体験・交流等の実施が難しい状況であるため、オンラインでの実施等、区内でも海外の文化に触れることのできる機会を提供する必要がある。

また、文京区は外国人住民に占める留学生の割合が高いため、留学生受入施設、日本語学校や大学等と連携した交流事業を実施することで、交流の機会の充実を図りたい。

(2)海外都市との交流の活性化

新型コロナウイルス感染症の影響で、海外都市訪問団の受入れやホームステイ生徒の受入れが中止となるなど、海外都市との交流が困難な状況であるため、人の移動を伴わない交流事業の充実が必要である。

(3)国際理解に向けた情報の収集・発信・共有

近年、外国人への情報発信や外国人との新しいコミュニケーションのツールとして「やさしい日本語」が普及しつつある。日本人と外国人の交流を促進させる手段として、行政による「やさしい日本語」での情報発信や「やさしい日本語」を使った留学生との交流事業等を通して、区民へ浸透させていくことが必要である。

【参考事業】

■事業1 地域連携活動事業

事業概要		
地域の行事や団体と連携して、外国人が日本の文化体験や日本人との交流を通じて、日本人や日本文化を理解できる環境づくりを行う。		
事業実施内容	事業実績	
文京クリスマスマーケットにおける姉妹都市スタンプラリー 実施日：令和元年12月14日(土) 参加者数:約500人	当初予定数	—
	実績数	500人(—)(—)
	申込数	—
成果	課題	
姉妹都市スタンプラリーの実施を通して、カイザーラウテルン市の認知度が高まるとともに、同市に関するチラシをあわせて配布することにより、これまでの交流の経緯等も広く周知できた。	外国人の興味は多様であり、外国人の興味・関心等に合った内容を検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 国際交流事業における参加者アンケート等を参考に、外国人の興味・関心を引く事業を展開する。	

■事業3 国際交流フェスタ

事業概要		
日本人と外国人が、日本や世界各国の様々な文化を体験できる、国際交流フェスタを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
第14回文京区国際交流フェスタは、令和2年2月29日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	当初予定数	—
	実績数	— (1,100人) (1,200人)
	申込数	—
成果	課題	
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	来場者数が減少傾向にあるため、ニーズを的確に捉えた改善策を検討する必要がある。 また、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いた場合の実施方法について、検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	従来の開催時期(2月下旬から3月上旬)は、留学生が出国する時期に当たるため、実施時期を変更する。 また、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く場合は、WEBを活用した国際交流フェスタを開催する。	

(2)分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①外国人住民に対するサービスの向上

外国人住民が日常生活において何に困っているのかを把握し、適切な支援を行う必要がある。文京区では、英中韓の翻訳に取り組んでいるが、今後、「やさしい日本語」を用いて情報を発信するとともに、区が「やさしい日本語」を習得する機会を提供する必要がある。

【取組状況の評価】

①外国人住民に対するサービスの向上

庁内の各部署が作成する行政文書の翻訳を実施する多言語化サポート事業は、外国人住民の利便性の向上と窓口業務の円滑化に役立っている。

《関連事業 15》

【課題と今後の対応・方向】

(1) 区の資源を活用した、歴史文化等への理解の推進

文京区紹介映像の多言語版(英語・中国語・韓国語)を区ホームページにて公開しているほか、区公式PR動画の字幕版(英語・中国語・韓国語)を公式YouTubeチャンネルで公開しているが、区内外の方に見てもらふ機会を増やすため、積極的な広報が必要である。

(2) 外国人の生活・滞在に対する支援

行政文書等の多言語化においては、英語、中国語、韓国語に加え、フランス語、ベトナム語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語にも対応しており評価できる。今後は「やさしい日本語」の活用に向けた検討が必要である。

【参考事業】

■事業15 外国人の日常生活支援のための多言語化

事業概要		
外国人住民の日常生活に必要な行政文書を多言語化する。		
事業実施内容	事業実績	
税務課：特別区民税・都民税/軽自動車税 証明書交付申請書 高齢福祉課：「こんにちは高齢者あんしん相談センターです」 国保年金課：督促状 管理課：自転車保管所案内ほか みどり公園課：肥後細川庭園リーフレットほか 教育総務課：PTAとは 学務課：運動器健診保健調査票ほか 児童青少年課：育成室のご案内ほか	当初予定数	—
	実績数	16文書(26文書)(13文書)
	申込数	—
成果	課題	
庁内各部署が作成する行政文書の翻訳を実施することで、外国人住民の利便性に資するとともに、窓口業務の円滑化に役立った。	これまでは納期を一律に設定していたが、各課からの要望に応じ、納期を早めることや、英語、中国語、韓国語以外の外国語等にも対応する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	国立国語研究所実施の定住外国人が理解できる言語の調査では、「英語」よりも「日本語」であることが示されており、区民や区職員に対し、「やさしい日本語」の周知・習得を促進する。また、本区在住外国人の国籍は、中国、韓国、米国の外にベトナムやミャンマー等東南アジア各国が多いため、これらの言語への翻訳対応も進める。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

観光・交流分科会座長 山田 徹雄

① 分野別目標1 国際理解を育む機会づくり

姉妹都市カイザースラウテルン市との提携事業を通じて、子どもたちが海外経験を積む機会を提供することに成功している。一方、開催直前に中止となった国際交流フェスタは、少なくとも準備作業が順調に進行していたことを指摘しておきたい。

② 分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり

文京区紹介映像等の多言語化によって、区の広報が国際化していること、また、行政文書等が多言語化(英語、中国語、韓国語、フランス語、ベトナム語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語に対応)していることは、外国人が暮らすためのインフラとして重要であり、大いに評価できる。

③ 分野の総評

国際理解の促進と外国人の生活支援のインフラの提供という点で、積極的に取り組んでいることが評価できる。

多言語化と並んで、「やさしい日本語」を通じた情報提供をも推進することが求められる。

第7章 横断的施策の点検・評価

1. 主要な事業の成果に対する評価

(1)情報の収集・共有・発信

前年度の課題と今後の対応・方向

①新規参加者を増やすための周知

チラシやパンフレットが、ターゲットに十分に行き届いていない部分がある。リピーターだけでなく、新たに事業へ参加する人を増やすためには、不特定多数の人が情報を目にする機会を作っていく必要がある。

②SNSの活用促進

SNSの活用は進んでいるが、年代や国籍などによってツールを使い分けるなど、より効果的な手段を検討した上で、情報発信をしていく必要がある。

③障害者や外国人などに対するきめ細かい支援

障害者や外国人などの情報が届きにくい方に対し、分野を超えて相互に連携しながら支援する取り組みを進めていく必要がある。

④全分野を統合した施策の推進

生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の全分野を視野に入れ、それらの資源や拠点をめぐるウォーキングルートの作成、学習コンテンツの充実、健康増進プログラムの作成など、各分野の情報を集約することで、全分野を統合した施策を推進してほしい。

【取組状況の評価】

①新規参加者を増やすための周知

親子向けの講座など子どもの参加が可能な事業について、区報・ホームページのほか学校を通じてチラシを配布し、より多くの対象者に情報が行きわたるよう周知されている。

②SNSの活用促進

ほとんどの事業の周知にSNSが活用されており、広報の手段として定着してきている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う区民施設の利用や事業の開催について、適宜SNSで情報発信されている。

③障害者や外国人などに対するきめ細かい支援

シビックホールの音楽劇ワークショップでは、舞台手話通訳者が演者ととともに舞台に立ちながら通訳することで、聴覚障害者の方も楽しめるプログラムとなっている。

令和元年台風19号発生時には、区HPやSNSで、「やさしい日本語」を使った情報発信を行い、外国人にも分かりやすい形で情報を届けることができた。また、区内日本語学校と連携し、留学生とやさしい日本語を使った交流会を開催して、相互理解を深めることができています。

④全分野を統合した施策の推進

全分野を関連づけた施策については、引き続き検討が必要である。

【課題と今後の対応・方向】

① SNS等オンラインでの周知

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、SNSとしてFacebook、Twitterに加え、Instagramも活用し、オンラインで事業や施設利用等について情報を発信していくことが一層必要である。

(2)協働する人材の育成

前年度の課題と今後の対応・方向

①参加しやすい動機づくり

需要に対して人材の供給が足りていない事業もあり、協働する人材を増やしていくためにも、活動に対する参加者のインセンティブを考えていくことが必要だろう。

【取組状況の評価】

①参加しやすい動機づくり

文の京生涯学習司・インタープリターやスポーツボランティアなどのボランティア事業や人材育成事業について、積極的に周知し、参加を促すことができている。参加の動機付けについては、引き続き検討が必要である。

【課題と今後の対応・方向】

① 活動内容の具体的な周知

継続的に活動できる人材を育成するため、事業参加前に活動内容の具体的なイメージを持ってもらい、活動前と後で参加者の認識に齟齬が生じないように周知に工夫が必要である。参加者の意見を収集し、事業の改善に努められたい。

(3)東京2020オリンピック・パラリンピック

前年度の課題と今後の対応・方向

①東京 2020 大会後のスポーツ活動の継続とレガシーの継承

東京 2020 大会を契機に、ボッチャなどの障害者スポーツやボランティアなどのスポーツを支えることへの関心が高まってきているが、一過性のもとならないよう、大会後どのように継続させていくか検討するとともに、いかにレガシーを継承していくかについても、広い視野を持って考えていく必要がある。

【取組状況の評価】

① 東京2020大会後のスポーツ活動の継続とレガシーの継承

令和元年度は、文京クリスマスマーケット2019を開催し、期間中は延べ17,100人の来場があり、ドイツ文化を身近に感じてもらう中で、区民の国際理解の促進につながった。また、花の五大まつりなどの際の「ボッチャ」体験ブース設置や区内学校でのブラインドサッカー体験など、引き続き多くの区民にパラスポーツに触れてもらう機会を提供している。

大会後の活動の継続とレガシーの継承については、引き続き検討が必要である。

【課題と今後の対応・方向】

① 東京2020大会後のスポーツ活動の継続とレガシーの継承

東京 2020 大会を契機に、高まってきた障害者スポーツへの関心が、一過性のもとならないよう、普及や理解の促進に努められたい。また、区民が聖火リレーイベントなどの大会関連事業に、ボランティアとして参加することで培われた「支える精神」や、ホストタウン事業を通じて育まれた国際理解などを、大会後もレガシーとして引き継いでいく必要がある。

【参考】

文京区アカデミー推進協議会委員名簿（令和2年度）

	分野	氏名	団体等
1	学識経験者	山田 徹雄	跡見学園女子大学名誉教授
2	学識経験者	田中 雅文	日本女子大学人間社会学部教授
3	学識経験者	青木 和浩	順天堂大学スポーツ健康科学部教授
4	生涯学習関係団体	増田 純	文京アカデミア学習推進委員会
5	生涯学習関係団体	片貝 憲二	文京アカデミア生涯学習支援者の会
6	スポーツ関係団体	井上 充代	文京区スポーツ推進委員会
7	スポーツ関係団体	酒井 宏	文京区体育協会
8	文化芸術関係団体	高澤 芳郎	シエラ・ウインド・オーケストラ
9	文化芸術関係団体	牧野 恒良	公益社団法人 宝生会
10	観光関係団体	白井 圭子	一般社団法人文京区観光協会
11	商工団体	関 誠	東京商工会議所文京支部
12	国内交流団体	内藤 雅義	津和野町東京事務所
13	国際関係団体	佃 吉一	公益財団法人 アジア学生文化協会
14	区民	堀 正孝	区民公募委員
15	区民	山内 豊	区民公募委員
16	区民	高橋 由貴子	区民公募委員
17	区民	小島 えりか	区民公募委員
18	区民	今井 瑛里子	区民公募委員